

亜鉛欠乏を来たす疾患・薬剤

以下の疾患では多く血清亜鉛値は低下しており亜鉛欠乏状態である。

① 肝硬変

- ①肝硬変ではアルブミン合成が低下することにより、アルブミン結合亜鉛量が減少しアミノ酸結合亜鉛が増加するが、アミノ酸結合亜鉛は尿中に排泄されることにより亜鉛欠乏を来たす。
- ②門脈圧亢進による小腸粘膜の萎縮は亜鉛の吸収不良を生じる。

② 糖尿病

- ①亜鉛の尿中排泄が増加して亜鉛欠乏状態になる。
- ②インスリンは2分子亜鉛を有しており、インスリンの合成・分泌にも亜鉛が必要であることより、亜鉛欠乏を合併すると糖尿病は悪化する。

③ 慢性炎症性腸疾患

- ①クローン病では低アルブミン血症を来たす例が多く、低亜鉛血症を来たす。亜鉛の腸管での吸収低下も報告されている。
- ②潰瘍性大腸炎に対するIVHは輸液中の亜鉛不足や、輸液中の糖・アルミ錯体が亜鉛をキレートする事により、尿中亜鉛排泄量が増加することにより低亜鉛血症を来たす。

④ 慢性腎臓病

- ①ネフローゼでは低アルブミン血症により亜鉛欠乏になりやすく、特にDM腎症で低亜鉛血症を来たしやすい。
- ②腎不全では食欲不振による亜鉛の摂取不足が原因となる。
- ③糸球体からアルブミンが失われ低アルブミン血症になることも原因である。

⑤ 薬剤：PPI、利尿剤、ザイロリック、メトグルコ、インテバン、L・ドーパ

- ①PPIは胃酸を減らすことにより、Zn、Fe、Ca、Mgの吸収を低下させる。
- ②利尿剤は亜鉛の尿中排泄を増加させ、亜鉛欠乏を来たす。